

水車



平成31年1月7日

自分で決めて 毎日続ける

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

新しい年を迎え、この時期、誰もが、「今年は・・・。」という目標を立てると思います。皆さんは、どんな目標を立てたのでしょうか。「小を積んで、大を為す」という言葉がありますが、今年も、教育活動を通して、子供たちには、自分の目標をもち、その目標達成に向かって継続して努力をしていくことの大切さを伝えていきます。

さて、本日の始業式で、私から子供たちに、「自分で決めて、毎日続ける一年にしてほしい」という話をしましたので、紹介します。

皆さんは、なぜ、伊佐見小学校に、森の水車があるか、知っていますか。

体育館の前に歌詞が掲示してありますが、森の水車を作詞した清水みのるさんは、伊佐見小学校の卒業生で、伊佐見小学校の校歌もつくりました。その他にも、2,000曲の詞を作られたとても有名な作詞家です。その清水さんを記念して、平成元年、つまり、今から30年前に伊佐見小学校の中に森の水車が作られました。北校舎1階にある「清水みのるの部屋」も同じ年に作られました。その部屋にある本を読むと、清水さんは、子供の頃、浜名湖の夕日を見ながら、「早く、立派な人間になりたい。」と思い続けていたそうです。



皆さんも、清水さんや、先ほど発表した代表の3人の人と同じように、今年の目標を立てたいと思います。目標をもつことはとても大切なことです。

皆さんには、今年、毎日休まずに回り続けている水車のように、「自分で決めて、毎日続ける」一年にしてほしいと思います。皆さんの力を伸ばすのは、他の人ではありません。皆さん自身です。

例えば、「学級の仲間のために、一つよいことをする。」「漢字や計算の練習をする。」「自分で決めた運動を続ける。」など、頑張れることを自分で決めて、実行するという事です。思っているだけではだめです。続けることが大切です。これを一年続けると、とても大きな力になります。「自分で決めて、毎日続ける」という言葉を頭に入れ、今年も自分の力を伸ばしていきましょう。

(校長 尾田 聡弘)

学校給食週間に向けて

日本では、明治22年に学校給食が初めて実施されました。その後、戦争のために学校給食が一時中断されたこともありました。しかし、食糧難による児童の栄養状態の悪化という問題を抱えた日本に、ララ（アジア救済公認団体）より給食物資が寄贈され、昭和21年12月24日に学校給食が再開されました。それ以来この日を学校給食感謝の日と定め、学校の冬季休業と重ならない1か月遅れの1月24日の前後の1週間を「学校給食週間」として各校でさまざまな取り組みが行われています。

本校では、「ちゃんと食べよう！みんな健康しあわせ浜松」をテーマに予約給食や地産地消の献立を実施するとともに、給食委員会による集会等のイベントを実施します。給食の意義を学ぶとともに、食べることへの喜びや感謝の気持ちを育てる1週間にしたいと思います。



<給食集会の練習の様子>

(給食主任 鈴木 浩美 栄養教諭 前田 美知穂)

子供たちの地震発生時の避難について

12月11日(火)に大津波発生を想定した避難訓練を実施しました。子供たちの大切な命を守る避難方法を検証するため、常葉大学 阿部教授、浜松市教育委員会防災担当者をお招きし、子供たちの湖東中への避難の様子も参観いただきました。そして「東日本大震災と同様の地震の発生を想定すると、現在の避難経路で湖東中へ避難することが最も安全である」と御指導をいただきました。来年度も常葉大学の阿部教授をお招きしますので、検証を重ねてまいります。